

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370379

研究課題名(和文) 俗語版『秘中の秘』の伝播の研究 西欧中世における養生術の系譜

研究課題名(英文) "Dietetics" in the "Secretus secretorum" in 12-15 centuries

## 研究代表者

瀬戸 直彦 (Seto, Naohiko)

早稲田大学・文学学院・教授

研究者番号：30206643

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：『秘中の秘』という、9世紀ペルシアの「王者の鑑」につき、そのラテン語版2種類、中世オック語版、中世フランス語版をそのほかのロマンス語ないし英語版と比較することにより、とくにその養生術の部分に注目して検討を加えた。オック語版を中心にせず、12-15世紀における根強い女性嫌厭思想をその「シュナミティズム」にかかわる部分より指摘した。また中世フランス語版における10に上るヴァージョンのうちの9-10番目にあたる写本について調査した。

そして、従来は『秘中の秘』につながるものとは認識されてこなかったウスタシュ・デシャンの一作品が、その養生術の部分を引き継ぎ集大成したものであると結論づけた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this investigation was to research the part of dietetics on the "Secret of Secrets" (Secretum secretorum) which enjoyed a phenomenal popularity in the Eastern and Western World. The work was translated into two latin versions (12 and 13 c.) and into the vernacular languages of Western Europe furnished by enormous corpus. I essayed to bring to the light especially the occitan and old french versions which contain the dietetics (e. g., the motif of the 'schunamitism' and the "Giftmatschen"). I compared several manuscripts of occitan and old french translations with the "original" latin versions. I follow this dietetics down to the Ballades of Eustache Deschamps ("Qui veul son corps en sante maintenir" (no.1162: ed. G. Raynaud) and "D'un notable enseignement pour continuer sante en corps d'omme" (no.1496, ed. G. Raynaud) .

研究分野：中世フランス文学

キーワード：写本 養生術 オック語 古フランス語 ウスタシュ・デシャン 王者の鑑

## 1. 研究開始当初の背景

『秘中の秘』 Secretum secretorum は、9世紀ペルシアの「王者の鑑」をもとにした一種の百科全書で、アリストテレスがアレクサンドロス大王に統治の術を伝授する書簡という体裁をとっていた。これが西欧に伝播し、ラテン語で12 - 13世紀に二種の翻案がなされた。これらが俗語に訳される過程で変容をとげるが、本研究課題では、その養生術の部に焦点をあててオック語、古仏語のヴァージョンを検討する。

『秘中の秘』は、アルベルトゥス・マグヌスやロジャー・ベーコンがそのラテン語版を熟読し、科学史家のソーンダイクによれば10世紀以降の西欧中世において最も流布した書物の一つであった。ルネサンス以降になると、古臭い教訓書とみなされ読まれることはほとんどなくなった。しかし、このテキストが西欧各国語のなかで12 - 15世紀にじょじょに変容するなかで、どのヴァージョンがいかにして内容を変化させてきたか、あるいはどこを削除し、また何を付け加えてきたかを探ること、いいかえれば、このテキストの享受のされ方を探るのは、きわめて興味深いはずである。

ただし、ラテン語の二種の翻案だけで数百におよぶ写本があり、数の上でそれにまさる俗語での翻訳を調査することは、現在のところ不可能である。すでにロジャー・ベーコンが13世紀に長いほうのラテン語ヴァージョンを註釈し「校訂」していた。これは1920年にロバート・スティールによって詳しい研究と校訂の対象になっていた。1950年以降は、各国語の俗語版につき研究が進展してきている。そこで本研究においては対象を主にオック語と古仏語におけるテキストに限定して、そのもとになったラテン語版と比較検討しつつ、その受容のさまを具体的に明らかにしたいのである。

筆者はこれまでにトルバドゥールのオジル・デ・カダルス(12 - 13世紀)のよる教訓詩を解釈する機会があり、そこで披歴される中世の養生術につき興味をいだいてきた。これは2002年のメッシナ大学でのオック語オック文学研究国際学会で発表をおこなったものである。またこの課題については未校訂のヴァージョンも多く、写本伝承とテキスト設定のかかえる複雑な問題にかかわらざるを得ない。これについては科研費の3件の採択課題「中世フランス写本テキスト学への電子データベースの応用」、「写本テキスト学におけるヴァリエーションの総合的研究」、「写本テキスト学の構築に向けて」において取り扱ったもので、この分野でのテキスト設定につき現在では、ある程度把握できているのではないかと思う。

## 2. 研究の目的

上で述べたことを敷衍すれば、『秘中の秘』というテキストはダレイオス王を破ったアレクサンドロス大王にアリストテレスが王としての統治法や健康法(養生術)を説くと言う体裁をとっている。伝承の過程で、これに神秘的な哲学論や、鉱物の効用を説く金石誌、人相により相手を見分ける人相学(フィシオグノミカ)といった章が加えられ一種の「百科全書」に成長していく。

『秘中の秘』にかんする研究は、1980年代にワールブルク研究所の編纂になる2冊の報告集、すなわち、研究動向を総括する論文集と、ラテン語写本のリストのおかげで、アラビア語写本・ラテン語写本・西欧の俗語写本それぞれのテキストにより別個におこなわれてきた研究について、ある程度まとまった視点をもてるようになった。

しかし古仏語写本については、1944年に出版されたベッカーレッジによる校訂本(ピエール・ダベルノンが翻訳したアングロ・ノルマン方言によるもの)しかない。またオック語写本については、ばらばらに校訂がほどこされるのみで、相互の全体的な影響関係はほとんど調査されていない。研究の停滞の主な原因は、フランス文献学の権威で『秘中の秘』の研究にも長年携わってきたジャック・モンフラン(筆者の恩師にあたる)の急逝ではないかと思っている。モンフランは、ジョフロワ・ド・ヴァターフォールとセルヴェ・コパル両名による古仏語版の校訂を準備していたのであった。

今回の研究は、ラテン語による元版と比較しながら、少なくともオック語と古仏語により残されたテキストの全体像をつかむこと、そして古仏語文献においては、14世紀の詩人ウスタシュ・デシャンの作品までも視野に入れて『秘中の秘』の影響を検討しようと思っている。ウスタシュ・デシャンの残された作品は数多いがそのなかでもとくに養生術にかかわるテキストを、このような視点から読み解いてみたい。

## 3. 研究の方法

(1) オック語圏の作品については、イタリア人研究者イラリア・ザミュネールがロマンス語による写本の網羅的な調査をおこなって2005年以降の論考ではそれをリスト化している。ここからオック語による写本の同定作業をおこない内容を調査する。

(2) ラテン語版については、19世紀末の古いエルマン・スュシエ(ヘルマン・ズーヒャー)の校訂したテキストに加えて、1963年にラインホルト・メーラーによって中高ドイツ語版とそのもとになったラテン語版を見開きで対照できるように案配した校訂版が出ているのでこれを利用する。

(3) すでに私が取り扱ったことのあるオジ

ル・デ・カダルス奇妙な教訓詩の源泉（スルス）をさらに探って、『秘中の秘』との関連を調査する。

（４）主としてロジャー・ベーコンによるラテン語ヴァージョンと、中世英語版（ロバート・コーブランドなど）における「シュナミティズム」（「ダヴィデ王の療法」ともいわれる、老人の体の冷たさに若い娘の温かい身体を添わせる、ある意味でジェンダーの問題にもかかわるモチーフ）の有無の調査。

（５）写本校訂の方法にかんしては、本課題の直接の研究対象ではないものの、いかに写本が記され享受され伝播したかという問題にかかわる重要なテーマである。ロマンス語文献学の権威であるファビオ・ジネリ先生（フランス国立高等実習研究院教授）を東京に招聘して、文献学のこの分野についての知見をセミナーや講演をお願いして披露していただく予定である。また、この分野の基本書とされるベルンハルト・ビショッフの『ローマ古代から西欧中世にいたる古書体学』（1979年初版、2007年第4版）を読み解く作業をおこなう。

#### 4. 研究成果

（１）ヨハネス・ヒスパレンシスによる12世紀前半の短いラテン語版、フィリップス・トロポリタヌスによる13世紀前半の長いラテン語版、ならびにオック語版の養生術の部を検討して、これまでの研究を概括するとともに、それらにおけるシュナミティズムのモチーフを考察した論文をまとめた（『秘中の秘』覚え書き その養生術（中世オック語版）について）。

先行するヨハネスによる『秘中の秘』の翻訳が養生術に限られた部分訳であったのにたいして、フィリップスの長い版は、I王者への教訓、養生術、神秘的な哲学論を説く忠告、人相学（フィシオグノミカ）という、はるかに量の多い一種の百科全書に成長している。現在のところは、ラインホルト・メーラーによる校訂版（1963年）が最も使いやすいものであろう。ヒルデガルト・フォン・ヒュルンハイムの手になる中世高地ドイツ語訳とフィリップスのラテン語テキストを見開きで校訂したものである。それ以前の基本書としては、ロバート・スティールが1920年に出版したロジャー・ベーコンの註釈つき写本の校訂がある。これは13世紀の写本を底本にしており、本文下段にベーコンの注釈が付されている。私はメーラーの版における「（食事のあとには布団に寝て休養することが必要であるが、そのさい）何か温かくするものを腹部に置くことが必要である」というくだりに着目した。ベーコンの版では、このふぶんが「温かい美しい娘を抱くか、あるいは腹の上に温かくて重みのあ

る布地を（中略）おくかしなさい」となっている。この公序良俗に反するともいえる、そしてラテン語の長い版でも多くの写本には存在しないくだりは、じつはオック語のヴァージョンにも存在しているのである。

この種のテキストの細かい異同は、異本欄の詳細な検討を必要とするが、現在のところでは、オック語版でもラテン語のヴァージョンでも、一部のテキストのみが校訂されているにすぎない。

（２）古仏語版の『秘中の秘』と14世紀のウスタシュ・デシャンの養生術を比較検討して、後者においては5つの養生術関連の作品を調べた。とくに作品番号1162と1496を詳細に検討して14世紀中葉に大流行して多くの犠牲者を出した黒死病のさなかに、養生術が現実的なものに変化せざるを得なかったことを指摘した。今後の研究の方向としては、ウスタシュ・デシャンの長大な教訓作品である『結婚の鏡』にも見られる女性蔑視思想の流れをたどるべきこと、その延長上に「毒娘」のモチーフのあることも示唆した（古仏語版『秘中の秘』とウスタシュ・デシャンの養生術）。

（３）平成26年度にはカタロニアのレリダ（リエイダ）大学で開催された第11回オック語オック文学国際研究学会において、上の（１）、（２）に連なる発表を行い、出席者から有益な指摘をいただいた（"Bela donna ab fresca color": misogynie occitane dans le Secret des Secrets）。これは平成28年度（2016年）に発行されるはずの、その報告集に掲載される予定である。

（４）ジネリ教授の多忙のため、日本への招聘はかなわなかったが、ミュンヘン大学の古書体学者ベルンハルト・ビショッフ（1906-1991年）による『ローマ古代と西洋中世の古書体学』を歴史学とくにメロヴィング王朝期の研究者である佐藤彰一氏とともに邦訳して古代から中世にいたる写本学の概要を学び、かつ紹介した（邦題『西洋写本学』）。

この書物は、西洋の古書体学（パレオグラフィ）を、写本学（コディコロジー）から始めて、古典古代のパピルス文書より獣皮紙にしるされたコデックス（冊子体）、そして15世紀中葉以降の印刷術の発明に至る以前の書物にまつわる文化史でまとめるものであり、写本学と書物の文化史のあいだに最も重要な古書体学の解説がおかれている。密度の濃い叙述で文脈をたどるのに苦労したが、古代・中世の、文書史料というよりは写本についての的確無比な情報をてぎわよくまとめる基本書といってよい。1979年に初版が出て、それに図版23点を付し、ハルトムート・アツマとジャン・ヴザンによるフランス語版が1985年に出版された。この版はビショッフ

フ自身が加筆したもので単なるフランス語訳ではなく、新たな版とみなされる。そのフランス語版を参照しつつ出たのが英語訳(1990年)とイタリア語訳(1992年)で、前者には訳者による本文の追加部分があり、後者にはとくに写本の索引において詳細な情報の補充がなされている。フランス語版の図版をそのまま加えたドイツ語による2009年の原本(第4版)を底本としたわれわれの日本語訳においては、とくにイタリア語訳の写本についての情報を精査し精選して索引に付け加えてある。すなわち Elias Avery Lowe (Loew) の編纂になる Codices Antiquiores Latini (CLA)(1934-1971)とその補遺 Supplement (1985, 1982)をもとに、ピシヨッフの掲げた写本の参照をいちいち確認して、ドイツ語版にはひじょうに簡略な形でしか書かれていない索引を引きやすいものに代えた。またドイツ語原本第4版には、あらたにヴァルター・コッホにより新たな参考文献目録が加えられているが、それをそのまま収録しただけでなく、参照の便宜のために研究者索引のなかにまとめて加えた。我田引水のように恐縮ではあるが、「日本語版だけにしかない[4線図式]の参考図や[中世において写本作成の中心的役割を果たした90箇所におよぶ]修道院地図、研究者索引の増補などは、この種の学術翻訳の模範といえよう」(書評: 篠田勝英「ふらんす」(白水社, 2016年2月)と評された。

そして写本と写字生の関係については、抒情詩の卷子本というトピックを立てて、オック語・中高ドイツ語の写本からじっさいにその関係を論じてみた(「卷子本からコーデクスへ 写本欄外挿画の語るもの」)。とくにオック語写本(N)については、実際の図版をしめしつつ、写本における挿画について特徴的な点を指摘した。

具体的に述べると、現在ニューヨークのピアメント・モーガン図書館に所蔵されているトルバドゥールを収録するNという写本がある。これには俗語の抒情詩を収録する写本のなかでひじょうに稀なことであるが、欄外に挿画がほどこされている部分がある(77点)。これは6名のトルバドゥールの作品においてであり、挿画の付された作品の多い詩人はフォルケット・デ・マルセリヤ、ジラウト・デ・ボルネーユである。このアンソロジーの冒頭にあるフォルケットはのちにトゥールーズ司教に就任した高名なトルバドゥールであり、またジラウトは「トルバドゥールの師匠」と称される大詩人であった。とくに前者における挿画を分析すると、ワード・イラストレーションという技法の用いられていることに気づく。これは本文の語彙を「文字どおりに」描くもので、たとえば「頭から湯気を立てて怒っている人」とあれば実際に湯気を描くのである。N写本の挿画には本文で、詩人の心を奪っている奥方がうたわれる部分で、詩人の肖像が描かれ、その胸の

部分に丸く奥方の顔が入っているのである。このような「リテラリズム」は本文テキストと挿画の関係を探る上で重要であり、その写本を描いた人による一種の解釈と考えることができる。『秘中の秘』の写本伝承における本文と解釈の関係は、オリジナルテキストと註との関係からとらえるこのような視点につながってくるであろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

瀬戸直彦「『秘中の秘』覚え書き その養生術(中世オック語)について」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第58-2巻, 2013年, pp.35-56.

瀬戸直彦「古仏語版『秘中の秘』とウスタシュ・デシヤンの養生術」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第60-2号, 2015年, pp.33-46.

瀬戸直彦「卷子本からコーデクスへ 写本欄外挿画の語るもの」、『Etudes Françaises - 早稲田フランス語フランス文学論集』第23巻, 2016, pp.80-94.

Naohiko Seto, "Bela domna ab fresca color": misogynie occitane dans le Secret des Secrets, in Actes du Xie Congrès International de l'Association Internationale des Etudes Occitanes, Lhèida, 15-21, juin 2014, Ed. Aitor Carrera, 2016 (予定)

[学会発表](計1件)

瀬戸直彦, "Bela domna ab fresca color": misogynie occitane dans le Secret des Secrets, in Actes du Xie Congrès International de l'Association Internationale des Etudes Occitanes, (2014年6月18日: 於 リエイダ大学)

[図書](計1件)

ベルンハルト・ピシヨッフ, 佐藤彰一・瀬戸直彦訳『西洋写本学』, 岩波書店, 2015年, xvii-472 pp.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

瀬戸直彦 (Naohiko Seto)  
早稲田大学文学学術院 (文学研究科・文学部) 教授

研究者番号：30206643

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：